

東京朝日の鑿泉工事

今回數寄屋橋畔に新築せらる可き、東京朝日新聞社の大建築は、歐米各國の各建築を参考として模範的設計を爲し、目下竹中工務所に於て之れが工事に着手となるが、同建築中に裝置せらるゝ新設備として見逃す可からざるものがある。それは空氣を洗滌して新鮮なる空氣を各室に配送するものであつて、此裝置は實に衛生上より見て最も崭新有効の設備である。由來大建築物は多數人の出入多き爲め其空氣の汚染せるは人の知る所にして之れが爲め忌む可き病菌の傳染せらるゝ事も免かれぬ現象である。更に此結果夏季に在りては室内の冷却となりて炎天百度の東都に在りて猶八十度以内を保持し得るを以て事務能率の増進期して待つべきものがある。之等に鑑みて同新聞社は衛生空氣、洗滌、暖房、防火其他の雑用水として鑿泉を利用する事に成つたのである。一面又經濟上より見るも水道稅の一ヶ年分があれば大鑿泉を保

有し得るを以て其點に於ても非常に経費節減の利益がある。

同社鑿泉工事は、日本鑿泉合資會社に於て請負ひ口徑十二吋半の大鑿泉工事なるが、已に掘鑿開始せられ居るを以て近日中其結果を見る事が出来る事と思ふ。



東京朝日新聞社が數寄屋橋畔に新築せんとするビルディングの背景圖と、早くも其敷地の一端に用水の鑿井をなしつゝある景である。

A model of Tokyo Asahi Shimbun Building, Which Will be Erected Near Sukiya Bridge, Tokyo.

鑿井法はロータリー式大鑿井機にして櫓の高さ六十尺スチーム七十五馬力。

Well-Drilling Plant. Diameter of Well to be 12 Inches.